Management Club Report

Oct.2014/Vol.142

Monthly Opinion ≪5 年後の成長を見据えて≫

10 月 5 日、当社は満 15 歳を迎えることができました。その昔、男子の多くが元服を済ませたのが 15 歳前後だったようですので、ようやく当社も“大人の会社”の仲間入りを果たしたということになりそうです。大人の会社とはどのようなことを指すのでしょうか。

経営者である私は既に大人であるどころか高齢者と呼ばれる年齢に達しようとしてはおりますし、向もまあ、・・・・ですし、我々大人の二人が語り、行動することそれ自体が会社としての動きそのものに違いありませんので、そうすると会社も 15 歳といえども既に“円熟した大人”であるように思えます。

しかし法人としてはやっと大人になったに過ぎません。15 年間、曲がりなりにも事業を継続してきたことでようやく世間からの信用が少しもらえるようになっただけなのです。これからはこの信用力をどのように生かし、そして更に大きな信用を獲得していくかを自らが求めなくてはならないと思っています。それは取りも直さず法人としての存在感に“大人の会社”としての風格を備えることでしょう。それは次の 3 点に集約されます。1. 景気動向や税制など少々のマイナスな変動に対しても動じない基盤の強化。2. 強固な連帯を伴うネットワークの構築。3. マンパワーの整備と人財育成。

これらの 3 点は当社の課題として採り上げましたが、開業して 10 年から 15 年を経た歯科医院においてもまったく同様のことが当てはまります。今月はそのような時期に差し掛かり、一段鋭く飛躍しようと考えている歯科医院と共にこれからの 5 年を考えてみようと思います。

1 マイナスな社会変動に動じない基盤強化

経営に影響を与える周辺環境

事業を行っている限り、その事業体の経営責任とは関係のないことながら、避けて通れないマイナス要因というものがあります。政治的政策的なこと、経済動向に関わること、あるいは自然災害がもたらす甚大な影響といったことで、これらはどのように立派な経営を行っていたとしても少なからず経営にダメージを与える厄介者で、避けて通ることはできません。

健康保険のマイナス改訂

歯科医院経営であればやはり健康保険の制度上のマイナス改訂が真っ先に上